

2014-15 冬期の雪氷災害発生状況調査

○ 上石勲、安達聖、山口悟、本吉弘岐、石坂雅昭、山下克也、中村一樹(防災科研)

1. はじめに

2014-15 冬期は、2014 年 12 月の徳島県、岐阜県高山市の着冠雪災害、平成 2015 年 1 月の宮城、山形、新潟県での雪崩災害や建物被害、北海道道東地方の大雪と長期吹雪災害、1 月～2 月の大雪による新潟県内の建物被害など、各地で多くの人的・物的被害が出た(図 1)。

2. 雪氷災害発生状況

2014-15 冬期は、日本各地で大雪となっている、とくに、新潟県の山沿いをはじめ北陸・東北地方の山沿いと北海道道東地方で大雪となっている(図 1)。2014 年 12 月の徳島県と岐阜県高山市での大雪による被害では、樹木への着雪⇒その後の大量降雪による冠雪⇒倒木⇒電線切断による停電⇒道路除雪困難⇒長期停電、長期孤立と災害が連鎖した。とくに徳島県では、山間部の集落が孤立し高齢者が亡くなるという事故が発生した。生活道路が急勾配で幅が狭く、集落も点在しており、電話も IP 電話で停電によって連絡がつかなかったことも災害を大きくした原因と考えられる。

図 2 に雪氷防災研究センターで測定している積雪重量の変化を示す。雪が多くてしかも重いため、新潟県内では 73 棟の建物被害が出た。空き家の倒壊も目立っており、大きな社会問題となっている(図 3)。これは、山間部で雪が多いことと、降雨も多かったことも原因の一つとなっていることが推定される。

